

# 第32回

# うつのみやこども賞だより

平成27年度 6回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

## 《今月選ばれた本》

# 『赤の他人だったら、 どんなによかったか。』

吉野万理子/著(講談社)



## ～読んだ本の感想より～

- この時、自分だったらどうしただろう、と思う場面がたくさんあって、物語に入り込みやすかった。風雅の考え方が変わったことで行動などが大きく変わっていくのが伝わった。
- 赤の他人なんていないんじゃないかな。人を大切にしなければとあらためて思った。
- 私はいろいろな人と話して、「知り合い」を増やしていきたいです。
- 人はみんなつながっていることがよくわかった。だから、人の悪口は言えないと思った。
- 他人というのはなにかを考えさせる本でした。
- この本を読んで、どうしてもいやなことがあったら、別の道に進めばいいんだなと思いました。

## 『雲をつかむ少女』

藤野恵美/著(講談社)

- お話がどんどんつながっていくところがおもしろかったです。ネットについては身近なもので深く考えたことはなかったので、この本を読んで考え直すことができました。インターネットを上手に活用するにはどうすれば良いのかが書かれていたと思いました。
- けいたいを持つようになったときのことを考えながら読んでいました。
- やっぱり、戦争はよくないと思いました。私もLINEで他の人を悪く言うのはやらないように心がけたいです。
- 自分の気持ちを伝えたり、行動に移すことができ良かったと思った。

## 『すし食いねえ』

吉橋通夫/著(講談社)

- 豆吉たちと若先生の思いが重なった御前試合は、きんちょう感があり、おもしろかった。
- まぐろが昔下魚だったなんてしりませんでした。
- 江戸の世界観がおもしろかった。
- 「だれでもおいしい物を食べられるのはささやかだけでも大切な楽しみだった」という言葉が心にのこった。
- もくじに、すしの名前がいろいろ書いてあって、おもしろかったです。

## 『屋久島まぼろしの巨大杉をさがせ!』

遠崎史朗/著(風濤社)

- 読んでいて、とてもわくわくときどきしました。私も、あんな冒険してみたいです。新くんが、落花生の薄皮でたき火をしたのがすごいと思いました。
- 一人一人のキャラがとても個性的で違和感を感じませんでした。
- 新が勇気をだしていじめっ子に立ちむかえるといいと思います。
- わたしも屋久島に行って巨大杉を見てみたいです。道子がかっこいいなと思いました。